

第4回 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：小規模ホーム あんきな

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

日 時：令和7年11月19日（水） 9：30～10：30

場 所：会議室

出席者：8名

駐在所巡査長	0人	知見を有する者	1人
利用者家族	2人	大田市職員	1人
地域住民の代表	1人	民生委員	0人
事業所職員（職名：管理者、GH主任、小規模リーダー）			3人

報告事項

1. 登録実績と利用状況（R7.10月現在）

現在登録者数	9月	10月	新規登録者数	9月	10月
男性	3名	4名	登録 終了者数	1名	2名
女性	17名	17名		9月	10月
計	20名	22名		0名	3名

※最少年齢 76歳 最高年齢 98歳 平均年齢歳 81.9歳（10月）

令和7年度 サービス利用状況：定員25名（令和7年10月現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	21	20	20	21	21	20	22						
延人数	558	594	541	593	597	576	621						
実稼働率	78.4%	76.6%	72.1%	76.5%	77.4%	76.8%	80.1%						
通い/人	282	308	310	343	351	330	385						
泊り/人	62	105	131	147	154	102	130						
訪問/回	315	305	223	246	274	302	309						
支援1	1	1	1	1	0	0	0						
支援2	2	2	2	3	3	3	3						
介護1	5	5	5	5	5	4	4						
介護2	7	7	7	8	7	7	7						
介護3	3	2	2	2	2	2	4						
介護4	2	2	2	2	4	4	4						
介護5	1	1	1	0	0	0	0						

地域別利用状況（令和7年10月現在）

富山	波根	久手	大田	温泉津	久利	静間	五十猛
0人	5人	7人	5人	0人	1人	1人	2人

利用者の世帯状況（令和7年10月現在）

独居	配偶者（高齢）のみ	子等と同居
10人	5人	7人

2. 活動状況報告

①定員超過報告（定員：泊り6人、通い15人）

10/10（金）泊り1人超過、理由：介護者の自宅療養の為

Q：泊りの定員を超えた場合に部屋はあるのか

A：車椅子使用の方は使用が難しいが和室を泊り部屋として確保している。

②行事報告

10/3（金）長寿を祝う会開催

③外部評価関連報告

A 事業所評価関連

【地域包括ケアを担う活動】

目標：行政やサービス機関との会議、波根地域の活動・イベント等に参加する機会を増やす
→11/8（土）波根町文化祭の作品出展

- ・国が実施を求める介護給付適正化事業の取り組み：12/17（水）ケアプラン点検実施予定
- ・仁万図書館への外出

【質向上の取り組み】

目標：年間研修計画に応じて実施する

- ・9/10（水）ヘルスアップ事業 お口の健康講座 1名参加
- ・9/12（金）認知症実践リーダー研修 1名参加
- ・9/22（月）～10/20（月）身体拘束廃止研修「不適切なケアについて」全職員
- ・8/25（火）～9/26（金）リスクマネジメント研修 全職員

C. 事業所と地域のかかわり

目標：地域の行事や活動を通じて事業所との関係を深める。その中で相談事やニーズなどを把握する

→久手町の独居で閉じこもりの方に対して社会資源の通いの場に繋がった。介護サービスに頼らず地元の方との交流を続けられることを代表者とも共有した。

Q:独居の方はあんきな利用者なのか。また、地域からの相談があつて繋がったのか。

A:あんきな利用者であるが、年が若く通いで交流を図ったがプライドもあり拒否。閉じこもり期間が長くなったことから地域の通いの場へ事業所から相談して繋がった。地域の方からの相談はほぼ無く、運営推進会議内でも2件のみ。

（参加者からの意見）

- ・包括や社協などへの相談が優先されているのではないか。
- ・相談があつても勝手に人様の事に口を出すのを躊躇するケースもあると思われる。

D 地域に出向いて本人の暮らを支える取り組み

目標：利用者の個々の馴染みの地域や場所について一覧化し、計画的に地域へ外出する支援を行う

→朝波小学校児童下校時の見守り活動、波根まちセンでのコーラス活動での外出を継続実施している。

E 運営推進会議を活かした取り組み

目標：運営推進会議の目的や会議の内容が推進委員の方への理解が深まるように、わかりやすい言葉で伝え取り組みを可視化するなど工夫し相談や協力に繋がる意見を増やす

→本日外部評価を実施した。

Q:あんきな家族が出来ない事も対応してくれて有難いが、透析治療の方も受け入れて通院などの対応もされているのか。

A:今年度透析の方の受け入れを行った。病院への移送は事業所では出来ないため、受診後の通い利用で病院まで迎えに上がる対応を行った。現状ではタクシーでの通院は経済的負担が大きく、また、重度化した際に継続できるかが難しいと思われた。

Q:あんきな泊り利用は介護が高い人や医療依存度の高い方は断られることがあるのか。

A:基本的には空きがあれば断ることはないが、夜間帯に看護職員が常駐していないので痰吸引が頻繁にいる方は受け入れが出来ない。また、感染対策上、在宅で新型コロナやインフルエンザに罹患した方の受け入れも不可。

F 災害協力

目標：災害の規模や種類に応じた災害訓練を計画的に実施する

→日頃からの備えとして2点環境整備を行った。

- ・非常口を色分けして掲示したり、非常口までの動線に蓄光テープを廊下の壁に貼ったりして利用者が自主的に避難できるように工夫した。
- ・垂直避難では利用者が落ち着いて行えるように各フロアに海拔表示を掲示した。
- ・11/19（水）日中避難訓練予定

3. その他